

## 環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表

環境対策課長 榎原 聖二

### 重点事業の概要〔事業名：環境教育、環境講座開催事業〕〔目標値：年10回開催〕

○小学校高学年生を対象とした環境出前講座の実施

○この事業は、リープロ11に位置づけられた取り組み「環境を守り未来へつなぐプロジェクト」を実現するために実施する事業です。具体的には市内小学校高学年生を対象とした環境出前講座を実施します。家庭でできる地球温暖化対策やごみ減量化対策などをわかりやすく説明し、環境問題への理解を深めてもらいます。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	下半期の事業実施に向けて、市内全8小学校との日程調整を行った。また講座内容も、環境に関する身近な話題、最近のできごとなどをできるだけ取り入れ、児童らの環境問題に対して興味や関心を持ってもらえるよう工夫、見直しを行った。
	自己評価	日程調整や事前打合わせは円滑にできた。一部見直した講座内容も分かりやすく、より充実したものができた。
	下半期への対応	10月から11月までにかけ、市内8小学校の4年児童769人に対して開催する講座では、地球温暖化の問題や限りある資源の有効活用、ごみの減量化など、児童らに身近な環境問題に対する理解を深めてもらい、興味や関心を高めてもらうよう努める。
下半期	取組実績	10月から11月にかけて市内8小学校の4年生児童769人に対して講座を実施。環境に関する最近のニュースなどを取り入れ、児童らの興味を持つよう工夫した。
	自己評価	「このまま地球温暖化が進んだらどうなるのか」「私たちはどうしたらいいのか」など質問が多く出され、児童の関心も高かった。
	目標値の達成状況	目標値の10回開催は達成できなかったが市内全小学校で開催できたため、成果はあった。
	次年度への対応	もっとわかりやすく、内容を工夫しながら環境意識を持って次世代を担う子供たちがこれから家庭や社会で実践できるような取り組みも紹介していきたい。

#### 所管部長（リープロ担当部長）の指示

##### 上半期

小学校の頃に環境問題への意識を持つことがたいへん重要である。講座内容も興味を持てる内容とすることを心掛けている。

今後も、児童に対する環境意識の向上に向けて取り組むこと。

##### 下半期

小学生の生活環境問題、ごみ問題に関する意識は強いものがあり、自然環境保全の意識を向上させる取り組みはたいへん重要である。更なる工夫による対応を期待する。

## 環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表

環境対策課長 榎原 聖二

### 重点事業の概要 [事業名：環境美化啓発事業] [目標値：参加人数 1,800 人]

○環境美化啓発事業の実施

○この事業は、リープロ11に位置づけられた取り組み「環境を守り未来へつなぐプロジェクト」を実現するために実施する事業です。具体的には、市民や市内の事業所からの参加により、河川清掃や道路のごみ拾いといった清掃ボランティア事業を通じて、環境美化の啓発を図ります。

時期	項目	内 容					
上半期	取組実績	6月7日に開催した県内一斉ふるさと美化活動では29団体388人が参加し、ごみ空き缶など80kgを回収した。10月3日には2年ぶりに轟木川の清掃活動を開催予定。また「第2回スポーツごみ拾い大会 in 鳥栖」を11月14日に開催することで関係機関との日程調整をはじめ準備に取り組んだ。 【環境美化啓発事業への参加者の推移】					
			H23	H24	H25	H26	H27
		轟木川清掃	245人	291人	268人	沼川 164人	10/3 開催予定
		県内一斉ふるさと美化活動	雨天中止	284人	246人	—	388人
		捨てちゃイ缶バイ作戦	546人	270人	236人	244人	H28.1月開催予定
		スポーツごみ拾い	—	—	—	27組 122人	11/14 開催予定
合計	1,083人	1,040人	750人	530人	—人		
	自己評価	環境美化に対する市民の関心や意欲はあるものの、まだこの事業を通じてその広がりが市民全体へと十分浸透させているとは言えない。					
	下半期への対応	魅力的な事業の検討やPRの強化など、更なる参加人数の目標達成に努めるとともに、市民への広がりを念頭に事業を進めたい。					
下半期	取組実績	10月の轟木川清掃には流域住民など162人が参加。11月にはスポーツごみ拾い大会を弥生が丘町で開催し、28チーム131人が参加した。また平成28年1月に開催した捨てちゃイ缶バイ作戦には市内事業所などから290人が参加した。年4回の環境美化活動で合計971人が参加した。					
	自己評価	減少傾向だった参加者も増加に転じ、環境美化啓発に成果が上がった。					
	目標値の達成状況	目標値の1,800人には届かないものの、昨年、一昨年を大幅に上回る参加者となった。					
	次年度への対応	参加者数の増加は、市民の環境に対する関心の高さを示す一つの指標でもあり、さらに参加者や参加企業が増えるよう、啓発に努める。					

#### 所管部長（リープロ担当部長）の指示

##### 上半期

県内一斉ふるさと美化活動では多くの参加者は増加しており、今後も、参加者増加のためのPRや広報の充実に努め、実際の行動としての環境保全活動を含めた啓発事業の充実に努めること

##### 下半期

環境美化活動参加者数が971人と増加傾向に転じた。更なる充実に努めること。

環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表

環境対策課長 榎原 聖二

重点事業の概要 [事業名：水生生物調査事業] [目標値：参加組数 30 組]

○基山町との連携による水生生物調査の実施

○この事業は、リープロ11に位置づけられた取り組み「環境を守り未来へつなぐプロジェクト」を実現するために実施する事業です。具体的には、小学校高学年生とその保護者を対象に河川に住む生物を採取し、河川のきれいさを調査します。

時期	項目	内 容														
上半期	取組実績	<p>基山町との連携事業として水生生物調査事業を鳥栖、基山の2会場で実施。7月25日の基山会場には16組32人が参加。8月8日に河内河川プールで開いた鳥栖会場には15組30人が参加。水生生物の採取から分類、発表まで行った。</p> <p>【参加組数の推移】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25組</td> <td>35組</td> <td>11組</td> <td>26組</td> <td>31組</td> <td>18組</td> <td>31組</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H23とH26の鳥栖会場は雨天のため中止</p>	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	25組	35組	11組	26組	31組	18組	31組
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27									
	25組	35組	11組	26組	31組	18組	31組									
自己評価	<p>毎年定員を超える参加申し込みがあり、夏休みに親子で楽しく学ぶ環境イベントとして定着した。今年参加した児童らの関心も高く、身近な環境に接する機会を提供できた。また昨年は鳥栖会場が雨天中止となったため、今年度は日程を見直し、予備日を設けるなど運営面での改善を図った。</p>															
下半期への対応	<p>調査結果を整理したあと、県を通じて環境省へ報告する予定。</p>															
下半期	取組実績	<p>上半期で事業は無事終了したため、来年の事業について基山町と協議を行った。県を通じて環境省へ報告を行った。</p>														
	自己評価	<p>定員を超える参加申し込みがあり、夏休みに親子でできる環境学習の場として定着した。</p>														
	目標値の達成状況	<p>親子31組が参加し、目標値を達成できた。</p>														
	次年度への対応	<p>イベントとして終わらせるのではなく、河川浄化など身近な河川の状況にも目を配れるような人材育成につながるような内容も考えたい。</p>														

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

地域間連携も含めた事業として、また、環境保全事業としての意義も大きく、参加希望も多い状況である。更なる改善を図ることで、市民の環境意識の向上に努めること

下半期

河川環境の保全は、自然災害からの安全確保の観点からも重要であり、今後も、粘り強く、地道な事業展開を期待する。

## 環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表

環境対策課長 榎原 聖二

**重点事業の概要** [事業名：エコライフの推奨事業] [目標値：市報掲載等 12 回]

○エコライフの推奨事業

○この事業は、リープロ11に位置づけられた取り組み「環境を守り未来へつなぐプロジェクト」を達成するために地球温暖化対策を進めるものです。具体的には、市報やホームページ等を通じて、身近にすぐできるエコ行動の紹介をします。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	市報紙面上の“とっちゃんのエコライフのススメ”のコーナーで毎月、家庭でできるエコ行動を紹介したほか、昨年度から新たに「環境かわら版」のコーナーを設け、2か月に1度のペースで、可燃ごみ収集量やリサイクルに関する情報を掲載した。
	自己評価	「環境かわら版」のコーナーでゴミや資源物の収集実績を前年度との比較をしながら数字で紹介するなど、できるだけ市民に分かりやすく伝えられるよう努めた。
	下半期への対応	地球温暖化問題をはじめ、環境問題に対する市民の関心が高まり、ゴミ減量化などに対しても各家庭で実践されるよう、紙面等に工夫をしながら一層の啓発に努めたい。
下半期	取組実績	毎号にエコライフのススメを掲載したほか、「環境かわら版」のコーナーでも様々な環境に関する記事を掲載した。
	自己評価	限られた紙面であり、十分な周知や啓発はできなかったが、紙面を見た方からの記事に対し、市民に継続して掲載してほしいとの電話があるなど、一定の成果があった。
	目標値の達成状況	毎号市報へ掲載し、目標値は達成した。
	次年度への対応	市民に繰り返し広報していくことが重要で、今後も市民に関心が高い身近な環境問題など、内容を充実し、継続して掲載する

### 所管部長（リープロ担当部長）の指示

#### 上半期

市報による環境啓発活動として、定期的な情報提供が行われることで、環境保全啓発の情報としての定着が図られている。

今後も、紙面内容の充実やわかりやすい見せ方など改善も検討しながら一層の啓発に努めること

#### 下半期

エコライフに関する啓発活動は、一朝一夕に成果がでるものではないことから、市民の方から関心を持ってもらえる工夫も行いながら、一層の啓発活動を推進すること。

## 環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表

環境対策課長 榎原 聖二

重点事業の概要 [事業名：環境マネジメントシステム普及事業] [目標値：年2回開催]

○環境マネジメントシステム普及事業

○この事業は、リープロ11に位置づけられた取り組み「環境を守り未来へつなぐプロジェクト」を達成するために地球温暖化対策を進めるものです。具体的には環境省が普及を進めるエコアクション21の普及啓発及び鳥栖市エコ・ショップ及びエコ・オフィス推奨制度普及のための事業者向け説明会を開催します。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	7月15日、佐賀県が主催する「環境経営・省エネセミナー」の研修の中で、エコアクション21（以下：EA21）の説明等が行われ、72事業所（うち鳥栖市内事業所は3事業所）が出席した。
	自己評価	昨年度までは鳥栖市など県内3か所で開催していたが本年度から県内一会場となり、鳥栖市内の事業所の参加が少なく、十分な周知ができなかった。また、エコ・ショップ、エコ・オフィス推奨制度では新たな市内2事業所を認定することができた。
	下半期への対応	それぞれの事業所で環境への関心を高め、実践に結びつくような取り組みをしてもらえるよう、市報等で周知を図っていきたい。
下半期	取組実績	エコ・オフィスの認定更新等を下半期は8社に行った。
	自己評価	事業所に対する環境マネジメントシステムの普及活動が十分できなかった。
	目標値の達成状況	佐賀市で1回開催されたのみで、目標値の達成ができなかった。
	次年度への対応	事業所に対する鳥栖市独自の普及策等を検討したい

### 所管部長（リープロ担当部長）の指示

#### 上半期

エコアクション21の啓発を進めるための研修会場の減少などの影響もあるが、市内事業所に対する参加の啓発の更なる活動も必要である。市が進めるエコショップ・エコオフィス推奨制度には新たな参加事業所もあり、一層の普及を目指すこと。

#### 下半期

事業所への環境指導・環境マネジメントシステムの普及活動について、普及対策の向上が必要である。課題を含めた対応方法の検討を行うこと。

## 環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表

環境対策課長 榎原 聖二

### 重点事業の概要 [事業名：新エネルギーの普及啓発事業] [目標値：実施検討]

○再生可能な新エネルギーの普及啓発

○この事業は、リープロ11に位置づけられた取り組み「環境を守り未来へつなぐプロジェクト」を達成するために地球温暖化対策を進めるものです。具体的には、鳥栖市にふさわしい再生可能なクリーンエネルギーの普及啓発の検討を行います。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	全国の再生可能エネルギーの普及の先進的な事例についてインターネット等を通じて情報の収集に取り組んだ。
	自己評価	佐賀市ではバイオマス産業都市さがを目指し、ごみや下水道汚泥による発電などを積極的に導入している事例もあるが、多くの都市で模索中であり、鳥栖市の新エネルギーを推進する具体的な事業を示すには、もう少し慎重な検討を要する。
	下半期への対応	引き続き先進都市や民間事業者等の事例研究を進めるとともに、民間活力を利用した新エネルギーの普及の可能性等を調査したい。
下半期	取組実績	佐賀市のごみ処理施設等を視察した。
	自己評価	具体的な新エネルギーの選定や取り組みができなかった。
	目標値の達成状況	目標値は達成できなかった。
	次年度への対応	他の施設での取り組みを引き続き調査し、本市で建設を目指している次期ごみ処理施設への活用なども検討を始める。

### 所管部長（リープロ担当部長）の指示

#### 上半期

新エネルギーの普及啓発については、根気強い、粘り強い、また、長期的なスパンによる対応とともに、国や民間開発事業等の状況把握も重要であることから、更なる調査・研究を進めること

#### 下半期

先進自治体や事業所対応方法など、新エネルギーの普及啓発に関して、更なる調査・研究を進めること

## 環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表

環境対策課長 榎原 聖二

重点事業の概要 [事業名：資源回収奨励補助金事業] [目標値：資源回収団体数 100 団体]

○資源回収団体に対する資源物の回収費補助

○この事業は、リープロ11に位置づけられた取り組み「環境を守り未来へつなぐプロジェクト」を達成するためにごみの減量とリサイクルを進めるものです。具体的には、市に登録している資源回収団体が各家庭から出される古紙類などの回収した資源物の回収量に応じて補助を行います。

時期	項目	内 容																																							
上半期	取組実績	9 月末現在で資源回収団体登録数は 92 団体となった。また、4～8 月の 5 か月で延べ 233 団体が資源回収奨励補助金の申請を行い、古紙類 440,260 kg（前年同期比 4.1%減）古繊維類 14,190 kg（同 16.2%増）が回収され、合計 3,698,940 円（同 4.0%減）を補助した。 【資源回収団体による回収量及び奨励補助金の推移】																																							
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">古紙類</td> <td>1,296,030kg</td> <td>1,253,406kg</td> <td>1,137,329kg</td> <td>1,134,121kg</td> <td>1,043,241kg</td> </tr> <tr> <td>10,368,240 円</td> <td>10,027,248 円</td> <td>9,098,632 円</td> <td>9,072,968 円</td> <td>8,345,928 円</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">古繊維類</td> <td>28,049kg</td> <td>28,497kg</td> <td>27,464kg</td> <td>31,386kg</td> <td>25,980kg</td> </tr> <tr> <td>56,098 円</td> <td>56,994 円</td> <td>54,928 円</td> <td>62,772 円</td> <td>51,960 円</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">合 計</td> <td>1,324,079kg</td> <td>1,281,903kg</td> <td>1,164,793kg</td> <td>1,165,507kg</td> <td>1,069,221kg</td> </tr> <tr> <td>10,424,338 円</td> <td>10,084,242 円</td> <td>9,153,560 円</td> <td>9,135,740 円</td> <td>8,397,888 円</td> </tr> </tbody> </table>		H22	H23	H24	H25	H26	古紙類	1,296,030kg	1,253,406kg	1,137,329kg	1,134,121kg	1,043,241kg	10,368,240 円	10,027,248 円	9,098,632 円	9,072,968 円	8,345,928 円	古繊維類	28,049kg	28,497kg	27,464kg	31,386kg	25,980kg	56,098 円	56,994 円	54,928 円	62,772 円	51,960 円	合 計	1,324,079kg	1,281,903kg	1,164,793kg	1,165,507kg	1,069,221kg	10,424,338 円	10,084,242 円	9,153,560 円	9,135,740 円	8,397,888 円
			H22	H23	H24	H25	H26																																		
		古紙類	1,296,030kg	1,253,406kg	1,137,329kg	1,134,121kg	1,043,241kg																																		
			10,368,240 円	10,027,248 円	9,098,632 円	9,072,968 円	8,345,928 円																																		
古繊維類	28,049kg	28,497kg	27,464kg	31,386kg	25,980kg																																				
	56,098 円	56,994 円	54,928 円	62,772 円	51,960 円																																				
合 計	1,324,079kg	1,281,903kg	1,164,793kg	1,165,507kg	1,069,221kg																																				
	10,424,338 円	10,084,242 円	9,153,560 円	9,135,740 円	8,397,888 円																																				
自己評価	昨年度同期比で古紙類は回収量が若干下回り、古繊維類の回収量は大幅に上回っている。上半期の市民一人一日当たりの資源物以外のごみの量で見ると 899 g で、前年同期比 949 g で△50g(△5.3%)と大幅に減少している。																																								
下半期への対応	年間の回収量がどうなるか推移を見守るが、古紙類の市場価格も安定しているため、民間回収も活発であるため、昨年度同様別ルートでの古紙類の回収状況を調査し、鳥栖市全体の古紙類の回収量等を把握したうえで、必要に応じて対策を検討したい。																																								
下半期	取組実績	4～12 月の 9 か月で延べ 419 団体（前年 416 団体）が申請を行い、古紙類 776,850 kg（前年比 7.1%減）古繊維類 23,520 kg（同 8.4%増）が回収され、合計 6,261,840 円（同 7.0%減）を補助した。																																							
	自己評価	回収量が年々減少している。団体の活動回数は減っていないため、1 回に回収する量が減っており、その分は古紙回収業者や店頭回収などが増加しているか確認する必要がある。																																							
	目標値の達成状況	昨年度より 2 団体増加したが目標値を達成できなかった。																																							
	次年度への対応	古紙類のリサイクル状況を確認し、対応策を検討する。																																							

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

資源物の回収については、リサイクルの推進とともに、ごみ減量化を図ることが目的であり、古紙類の搬出状況、家庭や事業所の対応状況等について検証する必要がある。

下半期

古紙類の搬出状況、家庭や事業所の対応状況等を検証し、対応を検討すること。

## 環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表

環境対策課長 榎原 聖二

**重点事業の概要**〔事業名：コンテナ収集・美化活動推進奨励金事業〕〔目標値：交付団体世帯数 25,900 世帯〕

○資源物コンテナ収集における必要な活動及び美化活動を実施する町区に対する奨励金の交付

○この事業は、リープロ11に位置づけられた取り組み「環境を守り未来へつなぐプロジェクト」を達成するためにごみの減量とリサイクルを進めるものです。具体的には、各町区で実施する資源物のコンテナ収集及び町内の美化活動に対してそれぞれの世帯数に応じて奨励金を交付します。

時期	項目	内 容					
上半期	取組実績	市内全 76 町区でコンテナ収集・美化活動に取り組み、合計 24,637 世帯分（前年度比 14 世帯増）に 5,912,880 円を奨励金として交付した。 【奨励金交付世帯数と交付額の推移】					
			H23	H24	H25	H26	H27
		交付数（世帯）	23,976	24,280	24,494	24,623	24,637
	交付額（円）	5,754,240	5,827,200	5,878,560	5,909,520	5,912,880	
	自己評価	この奨励金事業を通じて、コンテナ収集による資源物回収と地域の環境美化活動が市民に定着してきている。町区独自あるいは個人での環境美化活動も増加してきており、環境に対する意識向上が図られ、ごみ減量とリサイクルに一定の成果が上がっている。					
	下半期への対応	昨年度からコンテナ収集では回収できないもの等が混入しているケースが時々あるため、分別の徹底に対する協力を引き続き呼びかけていく。					
下半期	取組実績	コンテナ収集・美化活動の推進を図るため、各町区のコンテナ収集日や分別方法などをまとめた平成28年度版ごみカレンダーを作成した。					
	自己評価	回収できないものの混入について、分別の徹底を各町区の区長に協力を呼びかけるなど行ったが、まだ不適正なケースが目立った。					
	目標値の達成状況	目標値の交付世帯数は達成できなかったが、全町区へ奨励金を交付した。					
	次年度への対応	ごみカレンダーを各家庭に配布し、コンテナ収集によるリサイクルの推進を図る。					

### 所管部長（リープロ担当部長）の指示

#### 上半期

地域の取り組みとしてのコンテナによる資源物回収は、各町区で定着しており、環境保全、ごみ減量化、リサイクル意識の高揚に成果を挙げている。

今後も、市民の資源物のリサイクル意識の向上のため、工夫を図りながら進めること。

#### 下半期

一定の市民の環境意識の向上に寄与している。

今後は、更なる工夫等を検討しつつ、改善等を図ること。



## 環境対策課長の仕事宣言！ 進行管理表

環境対策課長 榎原 聖二

<p><b>重点事業の概要</b>〔事業名：環境学習、環境講座の開催事業〕〔目標値：年4回開催〕</p> <p>○一般市民を対象とした環境出前講座の実施</p> <p>○この事業は、リープロ11に位置づけられた取り組み「環境を守り未来へつなぐプロジェクト」を達成するために、循環型社会への市民の意識改革を進める事業です。具体的には、一般市民を対象としたごみ減量・3R等についての環境出前講座を実施します。</p>
--

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	すでに町区やまちづくりセンター等での出前講座を4回開催したほか、マンション管理者研修会でごみ減量や3R、鳥栖市の資源物分別収集の取り組み等について説明した。
	自己評価	年間4回開催の目標値に対して、すでに計5回開催し目標を達成することができた。
	下半期への対応	市内の日本語学校への留学生をはじめ外国人が年々増加している状況で、こうした外国人に対するごみの分別等の環境講座を開催する予定。環境を守り、未来へつなぐ循環型社会の実現に向けた市民一人ひとりの意識改革と実践が不可欠で、今後も町区や団体に対して出前講座開催の呼びかけを行っていく。
下半期	取組実績	下半期は留学生が日本語を学ぶ日本文化教育学院や田代外町住宅区など3回開催した。
	自己評価	年間合計8回の講座が開催できたうち、近所とのトラブルになりやすい留学生にも説明でき、効果は大きかった。
	目標値の達成状況	目標値を大幅に上回る実績を達成できた。
	次年度への対応	留学生への分別方法やごみの出し方などの出前講座を積極的に開催する。

### 所管部長（リープロ担当部長）の指示

<p><b>上半期</b></p> <p>環境講座の出前講座を含み、研修会での説明など、積極的な広報活動を進めている。</p> <p>また、更なる取り組みとしての外国人居住者に対する啓発活動、講座の開催も検討しており、今後も、一層の環境意識高揚のため環境講座の充実を図ること。</p>
<p><b>下半期</b></p> <p>外国人滞在者も多くなっている中で、留学生への環境学習講座の開催は意義あるものである。今後も、様々な方々への環境意識向上のための取り組みを進めること。</p>